

# 7月・8月の管理ポイント

平成26年7月14日

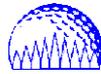


株式会社 トモグリーンケミカル

ホームページアドレス  
<http://www.tomo-green.com/>

第130号

今年の5月・6月は晴れて日差しの強い日が多く、5月の月間日照時間は多くの地域で平年の130%以上となり、気温も高く推移しました。当初は冷夏との予報だった今夏も、平年並みの暑さになるとのことなので、今年もやはり気の抜けない夏となりそうです。

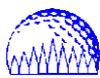


## レボ(REVO)

梅雨明け後の根上がり対策に...

梅雨明け後の高温は、土壌中の水分が多いと一気に根上がりしてしまう原因となります。レボを定期散布してある土壌では、土壌中の気相の割合が多いのでこういった症状を軽減できます。高温なので、つつい散水し過ぎになってしまいがちな時期ですが、レボ処理で根上がりの原因となる余分な土壌水分を除去しましょう。

使用量：2ml/m<sup>2</sup> 散布水量：200ml~1L/m<sup>2</sup> 散布回数：1ヶ月に1回



## アクアダクト・アクアダクトSWDG

ドライスポットが発生してしまったら...

ドライスポットが発生してしまったら、治療剤としてアクアダクト、アクアダクトSWDGを発生箇所及びその周辺に散布します(但し、レボを定期散布しているゴルフ場さまはレボの1000倍液をスポット処理して下さい)。アクアダクトSWDGは微粒剤タイプなので、スポット処理には最適で、カップ切りなどの後に処理すると芝の活着が良くなります(SWDGは我が国には無いタイプの細粒製剤で、散水分散型製剤です)。

使用量

アクアダクト：1回目は2.5ml/m<sup>2</sup>で散布し、回復の状態を見ながら1週間後に1~2.5ml/m<sup>2</sup>で散布(散布水量0.5~1.0L/m<sup>2</sup>) アクアダクトSWDG：10~20g/m<sup>2</sup>を必要に応じて1週間毎に散布

※ 2剤とも非常に安全性は高いですが、高温時(気温30℃以上が予想される日中)の使用は控えてください。



## スティンガーFL

害虫発生にあわせて...

7月、8月はシバオサゾウムシ、タマナヤガ、スジキリヨトウ、シバツトガの大切な防除シーズンです。

特に鱗羽目(チョウ目)害虫は、発生ピークが長く、数種類が混在して芝生を食害するので殺虫剤のローテーション散布が必要となってきます。食毒効果でグリーンで1ヶ月、ラフ・FWで2ヶ月以上の効果が期待できるスティンガーFLはローテーション散布の基幹剤としてご使用していただけます。

使用量：スティンガーFL 4000倍 0.2L/m<sup>2</sup>



## インターセプト

梅雨明け後の強光対策に...

梅雨明け後の強すぎる太陽光はベントグラスにとって過剰であり、高温ストレス・水分ストレスと重なってベントグリーンのクオリティを低下させます。インターセプトは過剰な太陽光をカットして、ターフの健全な生育をサポートします。また、散布後は自然な緑色を示すため、夏場の弱ったグリーンの印象をアップさせます。

使用量：ベント0.1~0.2ml/m<sup>2</sup> 100~500ml/m<sup>2</sup>散布



## グリーンメカ・マリンパワー・光合成細菌

芝の呼吸過多による糖消費と土壌菌数の回復に...

7、8月は高温による芝の呼吸量が増加し、糖含有量は1年で最も減少します。糖が少なくなると特に根に影響を与えるので、グリーンメカでしっかり補給していきましょう。

梅雨明け後(7月下旬)は、土壌が高温多湿で酸素不足になり、硫化水素など根に直接影響を与える有害ガスが発生しやすくなります。光合成細菌とマリンパワーを組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

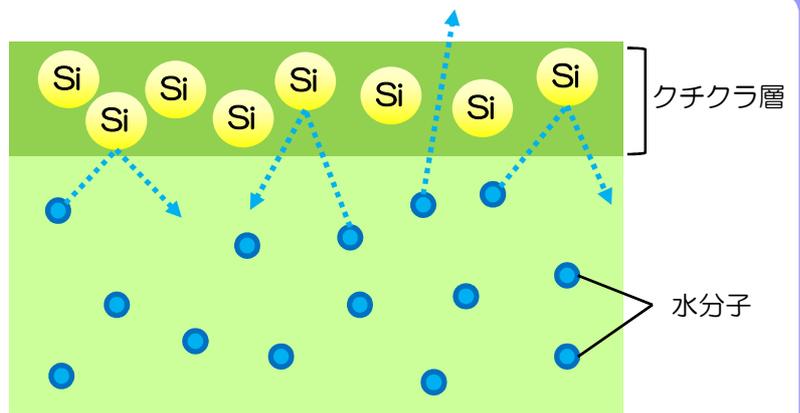
使用量：グリーンメカ 5~10ml/m<sup>2</sup> マリンパワー 2~4ml/m<sup>2</sup> 光合成細菌 1~5ml/m<sup>2</sup> 各1L/m<sup>2</sup>以上

# ケイ酸の効果

前回のマメ知識では、水稻におけるケイ酸の効果フローチャートの形で簡単に紹介しました。今回は、その中でも特に重要なものについて、具体的に説明します。

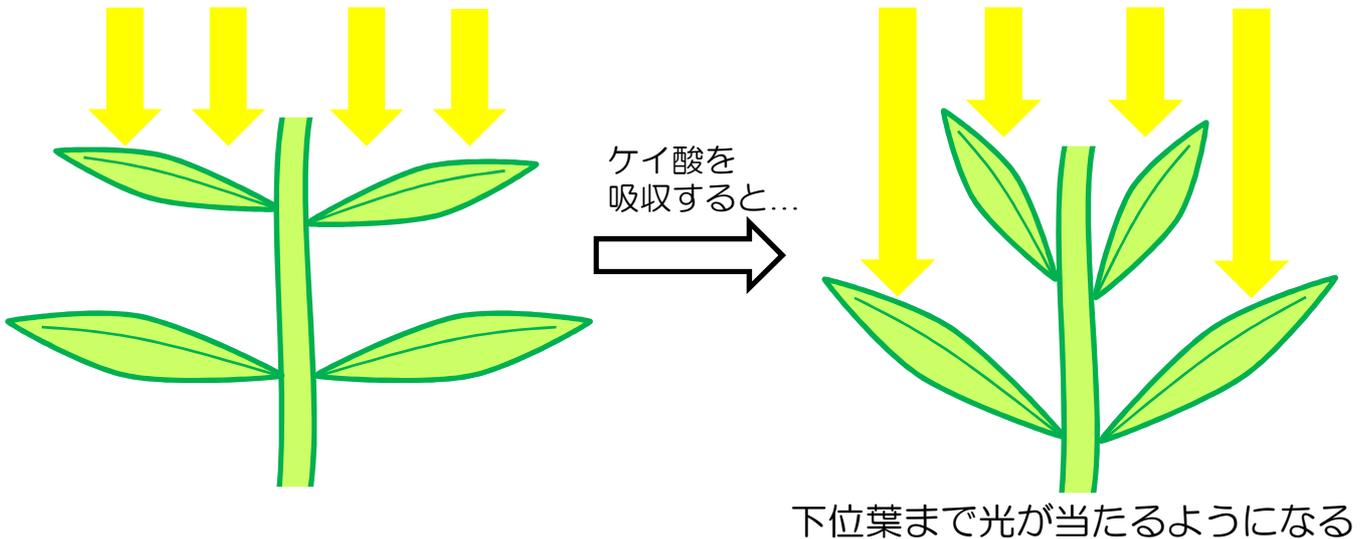
## 光合成能力の向上①

吸収されたケイ酸は葉身表面のクチクラ層に集積して、クチクラ蒸散を抑制します。これによって、気孔以外からの蒸散量が減少するため、気孔開度を高く保つことができ、高温多照条件下でも二酸化炭素を多く取り込めるようになります。



## 光合成能力の向上②

ケイ酸を吸収した葉身は直立型になるため、受光態勢が改善され、下位葉の光合成寄与率が高くなります。その結果、植物体全体の光合成速度も大きくなります。



## 物理的強度の向上

ケイ酸を吸収することによって光合成が盛んになり、稈壁の厚さや維管束の太さが増加するとともに、ケイ酸が葉身やもみ殻の表面に集積することで、植物体の物理的強度が向上します。これによって水稻の耐倒伏性が向上し、さらには病原菌や害虫の被害も受けにくくなると考えられます。

